

# NPO 救援隊が被災地へ

## 大船渡市の 本増寺 境内にキャンプ設営

台湾の国際救援NPO「中華民国搜救総隊(救援隊)」が震災救援活動のため来日し、十五日に東京を出発して十六日朝、岩手県大船渡市の日蓮宗本増寺に到着。境内にキャンプを設営して直ちに被災地の救援活動を行なっている。

台湾救援隊の情報は十六日、台湾・高雄に本山がある佛光山寺の別院「東京佛光山寺」から本

紙に寄せられた。それによると、成員三十五人の救援隊は十五日午後四時すぎに東京を出発し、高速道路で一泊して十六日朝、大船渡市に入った。台湾からの救援隊は政府派遣でなくNPOであるため日本での受け入れの手続きができず、十三日に来日してから二日間、東京・板橋の東京佛光山寺で待機せざるを得なかった。

信徒会員を通じてNPO法人災害危機管理システム・アース理事長の石原顕正氏(山梨県・日蓮宗立本寺住職)を紹介され、石原氏の尽力で東北へ向かうルートの通行や受け入れが許可された。救援隊に石原氏も同行して本増寺に到着し、キャンプを設営後、直ちに救援活動に入ったという。

「中華民国搜救総隊」は一九八一年に台湾で専門家、学者、一般のボランティア青年などで結成した初の民間自治救急組織。運営経費は政府の補助や募金ではなく、すべて隊員の私費と認可企業、一般からの寄付で賄っている。

海外で発生した災害に対し、非政府組織として救援活動を展開。これまでにミャンマー、エルサルバドルの地震や津波救助などに参加した。